

留学の現場から

アメリカ留学体験記

濱田 美乃里

(はまだみのり)
人文学部 4年

私は、2022年の1月から12月まで、約11か月間、アメリカのオクラホマ州にある、オクラホマ大学に交換留学に行っていました。オクラホマは、アメリカの中心あたりにあり、田舎で、竜巻の被害に遭うことが多い州です。ロサンゼルスやテキサスみたいに、多くの観光場所や、遊べる場所が近くになかったため、友人と部屋でご飯を一緒に作ったり、パーティーをしたりと、友人の輪が広がりやすい環境だったと思います。

オクラホマ大学には、他の学生と同じような授業を受けていました。私は欧米言語文学コースの英語学に所属しているため、言語学の授業や、コミュニケーションの授業、体を動かす系の授業も取っていました。授業はすべて英語でしたが、一緒に受けていた友人や、先生の力を借りて、無事に単位を取ることが出来ました。

留学すると価値観が変わるという言葉をよく聞くと、思います。私も留学を通して、「こうでなければならない」という思いがなくなりました。違う文化、違う価値観、違う経歴の人々と多く関わることで、今まで「しなければならぬ」と思っていた当たり前が、そうではなくなります。留学に行こうか迷っている人もいますが、せっかく時間のある大学生活、大いに楽しんで、チャレンジしてほしいです!!



山口にやってきて

曾 力

(ソウ リキ)
人文科学研究科修士課程 1年

人文科学研究科修士課程1年の曾力と申します。

まずわたしの故郷の紹介をさせてください。私の故郷は湖北省キ春県にあります。ここは、有名な中国の医聖である、李時珍の故郷でもあります。故郷は、中国中央平原の中心にあり、9つの省に通じる要衝で、古来より兵士たちの戦いの場であったため、今も戦場が残っています。加えて、南は長江、北は雨湖に接し、大小無数の湖と豊富な農産物があることから、魚と米の国としても知られています。

私は、これまで中国でいろいろな学校に所属してきましたが、どこにいても長江を見ることができたので、長江は、故郷を紹介する時の欠かせない話題であると感じています。長江を題材に詩を書いた詩人たちと同じくらい、そして毎日長江の堤防で踊る人々と同じくらい、私は長江を愛しています。

来日して長江に別れを告げる前に、私は、彼に長い間会えないことを告げてきました。しかし、彼が私を誰かに託したかのように、私が山口で借りたアパートの脇には榎野川が静かに流れています。まるで長江のように、昼も夜も、夕陽が雲の切れ間から川面に映り、一瞬にして昼から夜へと移り変わり、川の石積みの棧橋のそばには十五夜の満月が昇り、空には星が輝きます。彼——長江——とは2000キロも離れているのに、まるで離れていないかのように思われます。それが、山口という街に対する私の第一印象です。

中国の都市は忙しすぎる若者のようであり、一方山口は定年退職後にのんびり暮らす高齢者のようだ、私はよく友人に話してきました。私は、人生について語る言葉をまだ多くは持ってはいないのですが、山口からはとても納得のいく答えをもらった気がします。人生は繊細な果実であり、未来は神秘的な旅であります。日本の風土は、中国とはまったく違う美しさを感じさせてくれました。来る前には考えもしなかったことですが、来てからは、強く人生の美しさを考えさせてくれています。